



NPO熊取子どもとおとなのネットワーク

～みんなあつまろ！熊取の学童保育って、こんなところやで～に85名が参加

11/28(火)煉瓦館コットンホールにて、NPO主催のつどいを開催しました。「保護者に学童保育のことを知ってもらおう、興味をもってもらおう」と準備をおこないました。

まず始めに16クラブのスライドショーをおこないました。各クラブ支援員が写真を用意し「大事にしていること」を交えながら学童保育紹介をおこないました。子どもらしい生き生きとあそぶ姿や、思わず笑みがあふれ出るような表情が映し出されました。保護者たちは同じ町内の学童でも、活動内容やあそび場・施設・環境が違うことがわかったり、OB保護者たちは、我が子がしていたことを懐かしく思い出したりしていました。

高校生・大学生、保護者となったOBたちの話は、6年間学童で過ごし「大勢の前で話すことになれている」「年下や年上の異年齢の人たちともフラットな関係になれている」など、熊取の学童保育が大事にできたことが自分たちの言葉や思いで語られていました。

初めてのつどいでした。いろいろな感想や保護者の意見を聞きながら、「NPOの運営する学童保育への理解と、”保護者会や共同の子育て”」をすすめるきっかけになるような活動を考えていきたいと思います。



参加者感想

- ・写真の準備が大変やったけど、保護者に向けてできてよかった。あたたかい拍手をもらってよかった。
学童っ子OBの話も聞けて良かった。(支援員)
- ・OBの話は「こういうことを大事に創りあげている」がわかった。保護者から「そういう学童に預けていてよかった。何かできることがあれば言ってください」と言われた。(支援員)
- ・OB・OGの話はなかなか聞く機会がなくよかったと思います。おもしろい話ばかりで楽しかったです。
(理事 一般会員)
- ・各クラブの紹介は支援員の顔見せもかねて、短時間でしたが特徴的な活動がわかりました。その後のOB・OGの話は、クラブの取り組みをより深めたり立体的になったりしていて本当に面白く聞かせてもらいました。
(理事 一般会員)

◇第41回くまとりこどもまつり 11月3日(祝)中央小学校にて開催 約600名参加!

・NPOは、てづくり「木の実であそぼう!」に109名が参加、要員11名



こどもまつり事務局要員としても参加し、昨年ほどの参加人数ではなかったけれど、子どもたちが楽しく参加しているのを見て、とても嬉しかったです。「木の実でつくろう」では、木の実集めから近くの山に探しに行き、色々な木の実を見つけて見たことのないものなどもあり、とても楽しかったです。当日、その木の実でかわいくリースを作っている子どもたちを見て、人数制限なく開催できてほんとによかったなーと思いました。(報告 品田 真理)

・熊取学童保育所支援員会は、あそび「紙ひこうき」「へびジャン」コーナーに98名が参加、要員24名

幼児から中学生までの子どもたちがおもいっきり遊びました。1年生の子がジャンケンで自分より大きな子どもたちにどんどん勝っていく姿を、見ているみんなが「頑張れ〜!」と応援したり、紙飛行機がよく飛ぶように、何度も作っては飛ばし、また作りなおしては飛ばすを繰り返す子どもたち。支援員たちは夢中になってイキイキとあそぶ地域の子どもたちにエネルギーをもらい、子どもたちにとってあそびの大切さをあらためて確かめさせてもらいました。

(報告 長井千茶子)



◇12/9(土)「こども広場2023」にサタデーパークが参加しました。



煉瓦館に子ども約130名が参加した熊取町青少年指導員連絡協議会主催の「こども広場」に、地域の12団体とともにあそびのコーナー「プラ板づくり」で参加しました。当日は4名の支援員スタッフで、85名の子どもたちがプラ板づくりを楽しみました。

「こども広場に初めて参加しました。描いた絵を一緒にオーブントースターで焼く役割をしました。初めて作る幼児や小学生も多く、親子でプラ板が縮んでいく様子を見て歓声をあげながら喜んでいました。絶え間なく子どもたちが来ていたので、一瞬で終わった気がしました。全体のフィナーレは、大学生と

ともにダンスをしたり、五門青年団のだんぢり鳴り物をノリノリで聞いて楽しむ姿をみると、大人たちが子どもたちのために集ってつくるイベントに参加できて、よかったなと思いました」

(感想 古根川 季恵)





◆不登校を考える親たちの集い ぼちぼちいこ会

10/27日(金) 会員5, 職員2、12/1(金) 会員5, 他2, 職員4が参加しました。

不登校・登校拒否の小学生・中学生は、日中どのように過ごしているのでしょうか。家で過ごす子ども、フリースクールに通う子ども、途中の時間から登校する子ども、別室がある学校であればその教室に通う子どもなど、子どもの状況や状態にもよりますが本当に様々です。しかし圧倒的に多いのは、家庭でほぼ一日を過ごす子どもたちではないでしょうか。

子どものなかには、学校への登校は困難だが、塾や習いごと、スポーツクラブには通っている子どもがいます。午後に学童保育所で生活することで、異年齢で関わり合いたくさんのコミュニケーションや友だちとありのままで過ごせたという小学生もいます。親たちは一日中家で過ごすより外へ出てほしい、何か他人と関わるキッカゲがほしいと思っています。学習保障も気になっているという声もあります。

熊取町では各小中学校にSSWが配置されていますが、保護者たちからの話ではなかなか不登校児童・生徒への支援や別室での学習確保、保護者支援には至っていないようです。教師たちは多忙を極めていて、休んでいるわが子への働きかけや要求をこれ以上しづらいという声も実際にあります。熊取町は教育支援センター設置に向けての準備が始まっているということですが、当事者たち(子ども・親・教師)がどんな場を求めているのかを聴きながら、どんな不登校児童の居場所・学びの場、支援の場が必要なのかを確認し、センター設置を実現していくことを望んでいます。

最近、「トーキョーコーヒー」というとりくみがドキュメンタリー等で報道されているのを見ます。ここは「問題は子どもの不登校ではなく、大人の無理解」の視点から、活動の中心を「まず大人が安心できる仲間と活動に打ち込むこと」にあるようです。ぼちぼちいこ会は、20数年前の発足以来「まず大人が安心できる仲間との出会い」にあります。参加を希望される方は、NPO事務所 西村・荻田までご連絡ください。

次回は、1月26日(金) 19:30より煉瓦館コミュニティ支援室①で開催します。

(報告 荻田千津子)

◆子育て・親育ち・とも育ち トーク&トーク

11/17(金) 保護者4名、保護者OB2名、職員5名の計11名の参加で実行委員会を開催しました。

実行委員長には燃杭大輔さん(西ナ保護者)が選出されました。話を聞いて自分の子どもの顔を思い浮かべ、自分の子育てを振り返り、子育てで大事にしたいことをみんなで確かめたい、という思いで講師を選びました。佐谷先生は10年前にもトーク講師としてお招きしています。楽しい話の中に多くの気づきや学びがある講演会です。講演会を聞いたあとは参加者で交流しましょう。たくさんの参加をお待ちしています。

(報告 福岡久美子)

2023年度子育て・親育ち・とも育ちトーク&トーク

開催日時:2024年2月25日(日曜日)午後1時~5時

開催場所:煉瓦館コットンホール

内 容:午後1時~講演会「人の気持ちのわかる子に ~共感性を育てる~」

講 師 佐谷力さん(常磐会学園大学国際こども教育学部研究部長)

午後3時~交流会 テーマを決めずに参加者で交流します。

◆ファミリー・サポート・センター くまとり

今年度はサポート依頼数が多く、12月現在1,312件です。この多くのサポート依頼を成立させるためには多くの協力会員さんの力が必要です。随時登録を受け付けていますので、ファミサポ事業に関心のある方はどうぞお気軽にお問合せください。2024年1月27日(土)には子育て講演を兼ねた協力会員養成講座を開催します。講師は熊取町子育て支援課スーパーバイザーの可児伸一さんです。詳しくは案内チラシをごらんください。参加をお待ちしています。

(報告 福岡久美子)